

平成27年度 第1期

清川泰次 イン・シカゴ

会期:2015年4月4日(土)ー7月26日(日)

入場者数:947人

担当者:村上由美

戦後間もない1951年、一般的にはまだ渡航が難しかったこの時期、清川泰次(1919-2000)は単身、アメリカへわたった。

アメリカ渡航前の清川は、二科展に作品を出品したり、銀座の資生堂ギャラリーで個展を開くなど、画家としての活動を本格的にはじめていた。そして、新しい絵画表現を求めている清川は、抽象表現主義などが台頭し、世界的に注目を浴びていたアメリカの美術に直に触れるため、渡米を決意し、船で幾日もかけ、憧れの地、アメリカへと向かった。

しかし、シカゴに着くと現地で面倒をみてくれる予定だった人が、急きょ亡くなり、清川は、アルバイトなどをしながら絵画制作に励むことになった。巨大なビル群が立ち並ぶ摩天楼の大都市シカゴは、清川の目にはどのように映ったのか。

本展では、日本と全く異なる環境の孤独な海外暮らしの中で、具象的な表現から抽象的な表現へと模索していた清川の約3年間のアメリカ時代の絵画作品を中心に、昨年新たに収蔵された作品も加えて紹介した。

また、同時期に清川泰次がシカゴの街並などを撮影した、当時としては珍しいカラー写真も併せて展示し、絵画との関連を探った。

出品目録

清川泰次

No.	作品名	制作年	材質
1	透明な静物	1950	ボード・油彩
2	TRANS PARENT STILL LIFE	1951	カンヴァス・油彩
3	親子	1951	カンヴァス・油彩
4	行人	1951	カンヴァス・油彩
5	TAIJI KIYOKAWA ART STUDIO	1951	カンヴァス・油彩
6	クリスマスイヴ望郷	1951-52	カンヴァス・油彩
7	黒のアブストラクト-52	1951-52	カンヴァス・油彩
8	シカゴにて	1951-52	カンヴァス・油彩
9	静物 イン シカゴ	1952	カンヴァス・油彩
10	飛行船の浮かぶ街	1953	カンヴァス・油彩
11	仮面のある	1953	カンヴァス・油彩
12	Painting No.100M-54-5	1954	カンヴァス・油彩
13	アブストラクト・イン・シカゴ	1954	カンヴァス・油彩

資料:

滞米時代の日記 1951-1953年

カラー写真 10点 撮影:清川泰次 1951-54年頃

*展示写真は清川泰次がシカゴ滞在中に撮影したボジフィルムをデジタル化してプリント

<小展示室>

14	Painting No.2694	1994	カンヴァス・アクリル・油彩
15	Painting No.2894	1994	カンヴァス・アクリル・油彩
16	Painting No.795	1995	カンヴァス・アクリル
17	Painting No.895	1995	カンヴァス・アクリル
18	Painting No.598	1998	カンヴァス・アクリル
19	Stainless Object No.3691	1991	ステンレス

資料:

カラー写真 6点 撮影:清川泰次 1951-54年頃

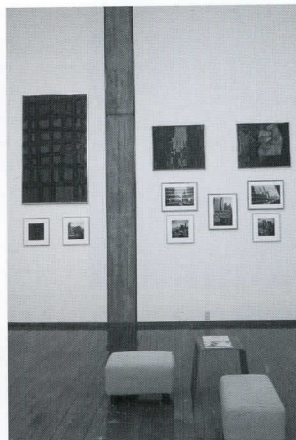
*展示写真は清川泰次がシカゴ滞在中に撮影したボジフィルムをデジタル化してプリント



B3 ポスター



A4 チラシ



展示風景



清川泰次と昭和

会期:2015年8月8日(土)ー12月6日(日)

入場者数:901人

担当者:村上由美

戦後、〈もの〉にとらわれない、抽象的な表現を追い求め続けた清川泰次にとって、昭和という時代はどんな時代だったかを、彼が戦時下に撮影した写真を中心に紹介した。

清川が出身地の静岡県から上京し、慶應義塾大学経済学部の子科に入学した昭和11(1936)年は「二・二六事件」が起きた年であった。大学入学後まもなく体調を崩した清川は、しばらく休学し、その間に写真と油絵を始め、再び大学へ通い始めた昭和16(1941)年に太平洋戦争がはじまった。清川は教育召集で軍隊生活や勤労奉仕などを経験し、大学を卒業したのは、太平洋戦争も末期となった昭和19(1944)年、25歳の時であった。清川が学生として過ごした時代は、まさに日本が戦争へと突き進んでいった時代と重なる。

本展では、清川の絵画作品とともに、昭和13(1938)年頃から戦後間もない昭和21(1946)年頃までの清川が撮影した白黒フィルムを新たにプリントし、展示した。これらは、大学の写真部に所属していた清川が、写真の勉強のために構図や撮影方法などを工夫しながら、日常生活を題材に撮った写真であり、普段の営みのなか、市井のひとりとしての視線から身の周りの物や、家族や知人、街などを捉えている。そこには、今も変わらない情景から、戦争という影が読みとれるものまで、昭和というこの時代の風景の断片が記録されている。

戦後の清川は、写真を離れ、画家として本格的に絵に取り組むようになる。200号の大作《イエロー・バランス》(1951年)を中心に、戦争という激動の時代を過ごした清川が、その後〈もの〉から解放された抽象的な自由な世界へと向かっていった足跡を紹介した。

小展示室では、清川泰次旧蔵の写真関係の資料などを展示した。

出品目録

清川泰次

No.	作品名	制作年	材質
1	自我像	1946	カンヴァス・油彩
2	自画像	1947	カンヴァス・油彩
3	イエロー・バランス	1951	カンヴァス・油彩
4	黄土の4号-61	1959-61	カンヴァス・油彩
5	ピリジャンの絵	1962頃	カンヴァス・油彩
6	Painting No.3781-B	1981	カンヴァス・アクリル
7	Stainless Object 合掌 No.2891	1991	ステンレス



展示風景

写真(モノクロ)

〈大展示室〉

昭和15(1940)年11月13日	祝奉 紀元 二千六百年	銀座にて	6点
昭和15(1940)年11月13日	祝奉 紀元 二千六百年	日比谷にて	1点
昭和16(1941)年4月20日	兄の結婚		2点
昭和17(1942)年			3点
昭和19(1944)年			1点
昭和13(1938)年			4点
昭和14(1939)年	正月		3点



B3 ポスター



A4 チラシ

昭和14(1939)年6月				1点
昭和15(1940)年2月				1点
昭和15(1940)年6月5日	兄の帰還	品川にて		6点
昭和15(1940)年6月5日	兄の帰還	1点		
昭和15(1940)年9月				2点
昭和15(1940)年11月13日	祝奉 紀元 二千六百年	日吉にて		3点
昭和15(1940)年11月13日	祝奉 紀元 二千六百年	田園調布駅前にて		1点
昭和21(1946)年		京都にて		3点
昭和21(1946)年		浜松にて		5点

〈小展示室〉

昭和13(1938)年～				4点
昭和16(1941)年				
昭和14(1939)年～				8点
昭和15(1940)年				

資料:

『カメラ・クラブ』 Vol.1, No.1 昭和10(1935)年3月1日、アルス刊
『カメラ・クラブ』 Vol.1, No.2 昭和10(1935)年4月1日、アルス刊
『カメラ・クラブ』 Vol.1, No.4 昭和10(1935)年6月1日、アルス刊
『カメラ・クラブ』 Vol.2, No.4 昭和11(1936)年4月1日、アルス刊
『カメラ・クラブ』 Vol.2, No.6 昭和11(1936)年6月1日、アルス刊
『カメラ・クラブ』 Vol.2, No.7 昭和11(1936)年7月1日、アルス刊
アルバム No.17『一本のフィルム』昭和13(1938)年
アルバム No.25『昭和14年のお正月』昭和14(1939)年
アルバム No.36『ライカスタイル』昭和15(1940)年
アルバム No.37『日吉生活 No.1』昭和15(1940)年
アルバム No.41『奉祝 紀元二千六百年 昭和十五年十一月十日のアルバム・上巻』昭和15(1940)年
アルバム No.45『生きるアルバム』昭和16(1941)年
アルバム No.54『生活アルバム』昭和17(1942)年
アルバム No.59 昭和19(1944)年
アルバム No.65『この年』昭和21(1946)年

展示風景



清川泰次の創作活動は1980年代に入ると、絵画だけにとまらず、立体作品や生活デザイン全般へと広がっていった。真っ白に塗られたカンヴァスの上に引かれた線が3次元の空間へと画面から飛び出したかのようなステンレス素材の立体作品は、画面という制約を離れ、空間の中を自由に動くことができる。一方、清川の絵画に見られるリズムカルな線と色によるシンプルな構成は、ハンカチをはじめ、カーテンやカーペットといったインテリアアパブリックまで、様々なテキスタイルデザインに応用された。また、清川は、グラスやカップ&ソーサーなどの工業製品として量産されるテーブルウェアのデザインも手がけるほか、益子や、有田などの現地の窯へ赴き、自ら絵付けをして制作したものもある。焼き上がると15%程小さくなる陶芸のスリリングな特性は、清川に絵画表現では体験できない愉しみをもたらした。

本展は、暮らしを豊かにするために、日常生活のあらゆる場面に自らの美意識を反映させ、多岐にわたる創作活動を展開した清川の1980年代以降の作品を中心に、絵画や立体作品に加え、清川がプロデュースしたオリジナルデザインによる各種グッズや、自ら絵付けをした陶磁器なども展示した。

出品目録

清川泰次

No.	作品名	制作年	材質
1	Painting No.181-B	1981	カンヴァス・アクリル・油彩
2	Painting No.2182-3	1982-83	カンヴァス・アクリル
3	Painting No.1483	1983	カンヴァス・アクリル
4	Painting No.684	1984	カンヴァス・アクリル
5	Painting No.1289	1989	カンヴァス・アクリル
6	Painting No.118990	1990	カンヴァス・アクリル
7	Painting No.190-91	1991	カンヴァス・アクリル
8	Stainless Object NIJI No.3191	1991	ステンレス6点組
9	Painting No.3893	1993	カンヴァス・アクリル
10	Painting No.1096	1996	カンヴァス・アクリル
11	Painting No.198	1997	カンヴァス・アクリル
12	Painting No.397	1997	カンヴァス・アクリル
13	Painting No.297	1997	カンヴァス・アクリル
14	Painting No.12000	2000	カンヴァス・アクリル

資料:

“線のシリーズ” テーブルウェアのための試作品(ポット、ピッチャー、シュガーポット、カップ&ソーサー、サラダボール、エッグスタンド、スープカップ&ソーサー、楕円皿)各1点

“線のシリーズ” テーブルウェア(1982年発売開始) カップ&ソーサー 2点

敷地焼(静岡県) 丸皿(5客1組)、灰皿2点、湯呑4点

森山焼(静岡県) 花瓶2点、皿1点

益子焼(栃木県) 大皿2点、角皿1点

有田焼(佐賀県) 皿1点、鉢1点

ハンカチーフ 10点

デザインノート

<小展示室>

15	Stainless Object 7-3 No.4191	1991	ステンレス3点組
16	Painting No.1294	1994	カンヴァス・アクリル
17	Painting No.994	1994	カンヴァス・アクリル

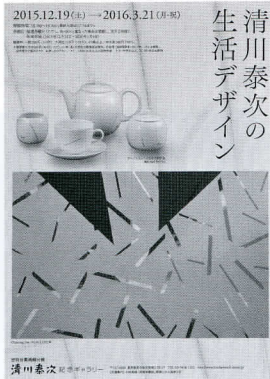
資料:

カーペット1点、クッション2点、スリッパ1点、テーブルランナー2点、テーブルクロス2点、ペンダント6点、ハンカチーフ2点、グラス5点

展示風景



B3ポスター



A4チラシ

